あなたのまちのコミュニティ活動情報誌

コミュニティしずおか

2023 1月 No.169

インスタ

地域の幸せのために、前向きにチャレンジ！

NPO法人ハピネス湖西（湖西市）

▼NPO法人ハピネス湖西は、「明るく楽しいまち湖西市」、「日本一幸せなまち湖西市」の実現を目指して活動する市民グループ。前向（まえむき）地区にある計2.6㌶の耕作放棄地を地元の子どもたち、耕作組合、特別支援学校、福祉施設等と連携しながら「日本一前向きな花畑」に再生しました。

▼活動開始から5年。SNSで情報発信をし続け「インスタ映え」する湖西市の新たな名所として知名度上昇中。コスプレ撮影大歓迎！今後も前向きにチャレンジしていきます！ ※2月中旬から菜の花が楽しめます。

◇理事長：菅沼泰久さん（問合せ・053-523-6524）

Topics トピックス

活動賞審査結果 …… P2～3
令和4年度「コミュニティ活動賞」審査結果
地域訪問記（御前崎市） …… P6
クローズアップ（掛川市） … P7

コミック のりづき・りえ

令和４年度　コミュ

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹
26日に開催するコミュニティ・フォーラム2023の席上で行います。

身体と心をリフレッシュ！健康年齢を引き上げと住民親睦

いきいき健康サロン千福が丘（裾野市）

毎月1回、平均30人程参加している

65歳以上の高齢者が体操・ゲームを行い、講演や演奏を聞き、身体・脳・心をリフレッシュして参加者の健康年齢を引き上げるとともに、地域住民との親睦を深めている。裾野市介護保険課の主導により「いきいき健康サロン」をスタートし、その後、運営力の向上に伴い住民主体に移行。町内会及び社会福祉協議会の支援を受けて活動している。　コロナ禍でのつながりづくりや小学校と連携した事業など、次々と新しい試みを行っている。

また、地域住民の趣味や特技を生かした発表の場で、住民の出番を作っていることも特長。発足から9年経過し、地域の居場所として不可欠となっている。

豊かな自然環境を保全し区民憩いの場

竈まちづくり協議会（御殿場市）

YouTube「もちやまチャンネル」にて情報発信中

平成30年に環境保全、自然保護を通じ、教育への活用を図り区民の憩いの場にしようと発足。有志からなる団体で30代～80代の47人が活躍している。

管理している「もちやまの里」は私有地。地主さんの協力のもと協議会が整備し、訪れた人に「里」について説明も行っている。私有地なので活動の制約が無く、コロナ禍では行き場を失った子どもたちの居場所になっていた。休耕田で作った野菜を子ども食堂へ提供。ブラックベリーを栽培しジャムとして販売することで財源の確保にも努めている。

芝生の広がる広い敷地には池や林があり、子どもたちは自由に遊べ、年々訪れる人が増えている。

優良賞

沼 津 市	第四地区コミュニティ推進委員会
焼 津 市	井伊直孝のふるさと“中里倶楽部”
藤 枝 市	藤枝市大洲自治会
牧之原市	川崎地区絆づくり エリア３プロジェクト
浜 松 市	NPO法人 浜松東区の自然と文化を残そう会

奨励賞

富 士 市	紙っと！プロジェクト
藤 枝 市	やらざあ美花下当間
島 田 市	しまだきものさんぽの会
掛 川 市	読み聞かせ　なないろび～んず
磐 田 市	磐田市南地区地域づくり協議会 「みんなでラジオ体操」
磐 田 市	緑十字機不時着を語り継ぐ会　（緑語会）
浜 松 市	通学路をきれいにする会

※当協議会HPで全団体の活動内容を紹介しています。

ニティ活動賞

介する優秀賞4団体ほか、別表のとおりです。なお、優秀賞、優良賞の表彰式を令和5年2月

だれもが安心して暮らせる、すみやすいまちを目指します！

瀬名川1丁目自治会（静岡市葵区）

ふれあいの集いのバルーン教室は子どもに大人気

葵区の東部に位置する自治会（900世帯2,700人）。1993年に発足以来、歴代の会長を中心に育ててきた自治会運営組織を受け継ぎ、瀬名川1丁目自治会の3つの約束「①毎年、自治会行事を見直そう!」「②無理せず、できることから始めよう!」「③どうせなら役員自ら楽しもう!」をモットーに、誰もが安心して暮らせる、すみやすいまちを目指している。

2007年に自治会ブログ「となりぐみ」を開設し情報発信。役員の顔や抱負を掲載したり、組長マニュアル等、自治会情報をタイムリーに紹介したり閲覧者数1日平均150人、累計50万超のアクセス数がある。

ゆうゆうらんどで遊ぼう出会おう集まろう

勝間田絆づくり事業（牧之原市）

大規模鬼ごっこに参加する子ども達

平成27年度、牧之原市内の各小学校区で、まちづくり計画を地域住民が策定したことをきっかけに住民が主体となって、地区にある多目的広場「ゆうゆうらんど、かつまーれ」を拠点に勝間田を元気にする活動に取り組んでいる。

子どもたちが自力で参加でき、地域の中で楽しめるよう企画している。毎年2月に大人も参加する大規模鬼ごっこは、子どもたちに大人気。また、多目的広場の芝生化では、住民が苗作りから行ったことで愛着につながった。

実行委員を中心に毎年地区内外の方が楽しめる独創的な活動を続けることで「地域の大人と子ども」や「他地域住民」との交流が生まれ、地域の活性化につながっている。

審査総評（川口良子　審査委員長）

本年度の活動賞は、優秀賞4団体、優良賞5団体、奨励賞7団体となりました。

審査方法は、審査基準に基づき、あらかじめ10人の委員が応募資料について事前評価を行い、審査会でその評価結果を踏まえ慎重に審議し、各賞を決定しました。

本年度は、3年間に亘るコロナ禍により、様々なコミュニティづくりの活動を制限せざるを得ない厳しい状況が続く中、直近の2年間より多い12市16団体の応募がありました。

本年度の特色としては、地域固有の自然環境、歴史・文化を生かした活動、耕作放棄地の活用や道路景観向上による、地域の環境や子供の安全等の向上を目指す活動など、テーマ性を持った活動が多かったことが挙げられます。そして、地域との関わりの明確さや強弱が評価を分けました。

審査においては、「高齢化が進む地域において、健康年齢の引き上げを目的に、従来の活動の継続にとどまることなく、新たに幼少児を含む地域住民との交流を始めている健康・福祉活動」、「地域の区役員やNPOなどと強い連携を図りながら、地域の歴史と文化、自然環境など豊かな地域資源を生かしたまちづくり活動」、「楽しむ自治会を目指し、毎年活動を見直しながらブログなどによりタイムリーな情報発信に努める自治会活動」、「地域の公園を芝生化、施設整備をするとともに、様々なイベント開催を行うことでコミュニティ拠点化している活動」などが、審査委員の高い評価を得ました。

コロナ禍に対応し、単に制限するだけでなく、屋外での活動による閉塞感の解消、例年の式典・懇談形式の敬老会を園児からのお祝いカードに変え、高齢者と園児との交流を図った事例など、多くの団体が様々な工夫を行っていました。

次年度以降、それぞれのコミュニティ活動団体が、知恵と工夫を駆使しながら、積極的にコミュニティの強化と地域課題の解決に向けた活動に取り組まれ、その成果を持って本「コミュニティ活動賞」に多数応募されることを期待しております。

まちから むらから

沼津市　資源ごみの分別で（SDGs）を図る

大平11区笑栄会

回収場を美しく保ってくれている笑栄会さん

▼沼津市大平地区にある大平11区（世帯数130）で活動する「笑栄会」は、会員22人、平均年齢75歳からなる老人クラブ。昭和61年に発足し活動の1つとして月1回の資源ゴミ回収日に立ち会い、資源ごみの再生化向上と環境美化に努めている。
▼回収日前日に2か所の資源ゴミ回収場内に分別板による仕切りを設置。一目でわかりやすく分別できるように工夫をしている。当日は朝8時から10時まで立ち合い、区分け違いがあったらその場で一緒に分別のお手伝いをする。
▼立ち合いはできる人が参加する形にしているが、会員の高齢化もあり固定化しつつあるのが今後の課題である。
▼決められた分別で資源ゴミ出しのお願いを呼び掛け30年。その活動が評価され、本年度は第66回生活と環境全国大会で環境大臣賞を受賞した。「先輩方の活動を今日まで継続している会員や区民の協力に感謝し、これからもSDGsに関心を持ち取り組んでいきたい」と古屋代表は言う。

◇代表：古屋静晴さん（問合せ・055-932-0662）

【情報提供・室伏哲男】

島田市　巧み・成長・輝き　第2回伊太文化祭

ふるさと伊太を明るくする会

▼島田市伊太地区では、昨年から新たに文化祭が始まった。去る11月27日に行われた第2回文化祭では、伊太小学校全校生徒の俳句や絵画、地区にある島田樟誠高校の陶芸部、美術部の作品が展示された。住民からは竹灯籠や古い航空写真、手芸、古いラジオ等、多彩な作品が陳列され、地域の隠れた芸術家たちの作品や秘蔵のお宝が日の目を見た。
▼主催する「ふるさと伊太を明るくする会」は、全658世帯が会員。自治会とは別に環境美化活動、区民体育祭、親睦旅行、梅まつりの事業を開催しているが、コロナ禍での活動がほぼ中止となり、代わりに何かできないか？再来年に統合にされる小学校と地域とで交流ができないか？との思いで文化祭が始まった。

多種多様な作品が展示された

▼「子どもたちは外の学校に行くことになっても、文化祭に出展してほしい、地域と係わりを持ち続けてほしい」と鈴木代表。昨年に引き続き来場者は100人程だったがPRの仕方を工夫し、コロナ禍で生まれた新たな地域行事を盛り上げていく。

◇代表：鈴木基之さん（問合せ・0547-37-2703）

【情報提供・池田　弘】

菊川市　ブラジル人学生と一緒にハロウィーン飾りづくり

FONきくがわ本旅図書室

インスタ

紙花のおばけを制作した学生たち

▼去る10月29日、菊川駅前通りを中心に「きくがわ灯りの散歩道onハロウィーン」が開催され、菊川赤レンガ倉庫には大きな三日月と可愛いお化けたちに囲まれたフォトスポットが設置され来場者に喜ばれた。
▼お化けの飾りを作成したのは、ブラジル人の高校生４人と小学生を含む日本人のボランティア５人。企画した「FONきくがわ本旅図書室」の代表の鈴木さんが、イベントを支える側に回ることで地域への関心を高めてもらおうと市内で日本語教室を開いているNPO法人ソヒゾ・デ・クリアンサに声を掛け、ブラジル人の高校生と一緒に飾りを作る交流の場を設け、紙花に目や鼻を付け、お化けやジャックオーランタンを作成した。
▼高校生は「久しぶりに折り紙や工作をして凄く楽しかった。たくさんの人に見に来てもらえるのが嬉しい」。ブラジル人学校の先生は「日本人との接点があまりないので良い交流の機会になった」と生徒が学んでいる日本語を話す機会があったことを喜んでくれた。

◇代表：鈴木あいかさん（問合せ・090-7687-7428）

【情報提供・塩澤恵美】

袋井市　「子どもは地域で育てる」子育てサポートを16年

あさば子育てひろば「チュンチュン」

▼浅羽防災センターでは、毎週水曜日の午前中に入園前の親子を対象とした子育て支援が開催され、幼児たちの元気な声が響いている。
主催する「あさば子育てひろば「チュンチュン」」は、平成18年、袋井市の子育て支援の呼びかけに、浅羽在住の元先生や民生委員など地元の有志が手を挙げ発足した。現在のスタッフは30代～７０代の女性11人。コロナ禍を除き16年間ほぼ欠かさず開催している。
▼初めての方も参加しやすいよう、スタッフは親子との係わりを大事にしている。参加する親は、同世代のスタッフからは幼稚園や小学校等の今知りたい事を聞き、親世代のスタッフからは育児について寄り添ったアドバイスを受ける。スタッフの温かさに触れたママが、子どもの入園後に仲間に加わりスタッフとして活動するという、良い循環が生まれている。
▼昨年の来場は平均9組弱と、コロナ前の半分に減り企画がままならない事もあったが、子育ての息抜きの場として、また同じ悩みを持つママ同士のつながりの場として浅羽の親子を見守っていく。
◇代表：永井由紀子さん（問合せ・水曜9～12時0538-23-0320（センター））

コロナ前に開催した節分イベントの1コマ

【情報提供・峰野　勇】

浜松市　はまはっぴー家族食堂は地域の交流拠点

特定非営利活動法人はまはっぴー

HP
多世代交流の場を提供するはまはっぴー

▼浜北区内野にある平成30年に発足した特定非営利活動法人はまはっぴーは、多世代交流の場を提供して地域の中に家族団らんの居場所を作ろうと、毎月1回「はまはっぴー家族食堂」を開催している。
▼現在コロナで食堂は中止しているが、代わりにお弁当100食程を配布、販売。当初は少人数で調理をしていたが、今では活動に賛同した地域の方も加わり10人となった。「最近はボランティア希望の連絡も増えてありがたい」と平野代表。団体の公式ラインから友達登録すると案内や申し込みができるようになっており、ラインを使えない方には個別発信を行っている。また、Amazon欲しいものリストを活用し寄付をお願いする等、時代に合った工夫をしている。
▼ニュータウン開発が進み、人口増加が著しいが横の繋がりは薄い地域。家族食堂を通して、顔と顔が見えるネットワークづくりを推進し、有事の際には支援活動が迅速に行えるよう災害拠点としての機能も担っていく。
◇理事長：平野大心さん（問合せ・053-586-6492）　【情報提供・佐藤勝彦】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます（アドレス　http//www.sizcom.jp ）

No.	市　町	活　動　名	主　催　者	趣旨・目的	情報通信員
1	下田市	頑張れ！大沢ワナ会	大沢WANA会	野生鳥獣による被害防止で農業発展と地域振興の為。	山田豊秋
2	伊東市	いよいよ発足！　地域の課題は自分たちで「知恵」を結集させて！	伊豆高原エリアまちづくり協議会	地域の課題ごとに6部門を立ち上げそれぞれ活動する。	佐藤みつ子
3	伊豆市	美味しい米づくりと地域農業の振興をめざして	農事組合法人グリーンファーム桂谷	地域農業への振興を積極的に展開。安全・安心で品質の良い農産物を生産できるよう支援。	伊藤　博
4	函南町	文化展は地域住民の出会いの場、交流の場	南箱根ダイヤランド文化展	展示作品を介して新しい出会いが生まれている。	虎尾恵美
5	焼津市	理学療法士が伝えるセルフマネージメント～肩こり・腰痛～	地域を明るくするリハビリテーション専門職の会静岡	地域に出向き「未病」の人たちにリハビリ専門職の知識や技術を還元。	秋田いずみ
6	磐田市	福田西部地区ふれあいフェスティバル	磐田西部地区地域づくり協議会	8地区合同で開催し、福田西部地区の交流と絆を深め元気にする。	安部詠司
7	森町	自転車で森町再発見！	クリティカルマス森町	自転車で巡るのにちょうどいいサイズの森町を安全に走り面白くしよう。	山田勝恵

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。

例年の花畑写真
今年も期待して
ください

花壇を担当している
女性陣

秋晴れの中
種まきが
行われた

笑顔を比木地区に咲かせ２３年

比木みどり会（御前崎市）

御前崎市比木地区（460世帯、人口1380人程）で23年間活動する比木みどり会。平成８年に、旧浜岡町が地域の見直しと発展の為に各地区で町づくり勉強会を1年間行ないました。このまま終わってしまうのはもったいないと有志で平成11年「比木みどり会」を発足。現在会員40人平均年齢70歳（男33人、女7人）で、花畑や花壇の管理、筏川の土手の草刈り、お祭りの出店、賀茂神社での新年の甘酒振る舞い等を行っています。

試行錯誤でヒマワリ育て

県道相良浜岡線沿いの草刈りをする中、地区のメイン道路に沿った休耕畑にお花が咲いていたら素敵だろうと平成21年より夏はヒマワリ、春は菜の花を咲かせることにしました。

管理する花畑は5800㎡。ヒマワリの種10kg、菜の花の種10kgを使用。以前は開花後に種取りをしていましたが、労力が掛かることから購入に切り替えました。代金は地区センターからの補助や河川の草刈りをして得たお金を当てています。

一面に花を咲かせるまでには、種を蒔いて芽が出ると鳥に食べられ、台風が来れば花が倒れないよう祈り、暑さの中のり面の草刈りをして花を見やすくする等ご苦労されています。また、3年前から種蒔きの後、土掛けを行うようにしたところたくさんの花が咲くようになったそうです。

活動をやっていて思う事は…

「親睦も楽しみの一つ」と友人の紹介で入会した事務局の萩原さん。「世代を越えたコミュニケーションが取れるのが地域活動の良いところ」と言います。「住民同士が連帯して活動するのは良い事」と岡村さん。会の活躍は知っていたので「退職後地域で生活をしていくうえで自分にとっても良いだろう」と入会したと言います。「会員の協力があってこそやってこれました」と代表の山口さん。皆さん、地域の人たちの喜ぶ顔やお褒めの言葉をいただけてうれいしと笑顔で答えます。来年は、見学者にゆっくりと花畑を楽しんでもらうために、駐車場を整備する予定です。

花の郷　比木

まだまだ活動を進めていく比木みどり会。いつかこの活動が地区全体の活動となり休耕畑全てに花が咲き、ヒマワリの花言葉のように見る人にエールを送り、“花の郷比木”になって欲しいと思いました。

取材後、今は菜の花が育っているというその場所を訪れると、畑一面緑の葉で覆われ２月に黄色い可愛い菜の花が咲く準備ができていました。来年の春はここに来て可愛い菜の花に癒され、夏は私の背より伸びたヒマワリに「頑張れ」と声を掛けてもらいに来ようかな。

左から
岡村さん
萩原さん
山口さん

◇代表：山口丈男さん（問合せ・090-8150-1159）
【情報提供：齋藤佳子】

レポート：市川頼子　編集委員

クローズアップ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。

今年度の交流派遣事業は陸前高田市と宮古市を訪問

湧き水と水道水を飲み比べ自然環境学校の1コマ

大学生が講師になり中学生に減災教育

協働の力で安全健全のまちづくり ～人にとって幸せなまちづくり～

協働遠州（掛川市）

誰もが暮らしやすい安全健全なまちづくりを目指して頑張っている「協働遠州」。活動の核となり運営を支える３つの団体、被災地支援活動の「ふっこう支援掛川」齋藤さん、安心な食生活と環境保全活動の「エコロジーライフ研究会」熊谷さん、古紙回収を中心に環境・防災の意識改革を進める「ＮＰＯ法人WAKUWAKU西郷」松浦さんにお話を伺いました。

市民活動グループをつなぐ任意団体

齋藤さんは、東日本大震災で被災地支援活動を行う中、専門能力と数の力の重要性を感じる場面に何度も直面し、１団体での対応能力の限界を実感しました。その経験から2013年の西伊豆復旧支援では近隣3つの市民団体と個人に呼び掛けたところ、幅広い技術と資材を活用しての支援ができました。これをきっかけに、掛川市及びその近郊の団体や個人に呼び掛け、対応の速さと質において、単体ではできないきめ細やかな活動が可能となる「協働遠州」を発足。古紙やアルミ缶回収、寄付等で資金調達し、被災地支援を主に、出前防災教育、環境学習等の活動をしています。

活動の充実は専門能力の結集から

ウクライナ支援の募金協力を呼びかけたところ、11団体が呼応して各所で募金活動開始。2ヵ月後には120万円を日本赤十字社県支部に届けることができました。また、豪雨被災地へのタオル寄付を団体に呼び掛けると、これまでに2000枚以上が集まるなど迅速に対応。活動に参加している団体の数を尋ねると「事案ごとに規模が変わり達成した時点で解散するので形のある団体でない」「周囲に協力を呼びかけ受け入れてもらったら協働のメンバー」と皆さん微笑みます。

学びを伝え遠州地域に貢献

毎年8月、東日本大震災の被災地との交流、被災体験の学習・共有を目的に中学生以上を対象にした交流派遣事業を開催。毎年多くの学生が自費で参加し、帰郷後に地縁組織や教育機関に出向いて行う減災学習会で、専門家とは別の視点で被災や復興の状況を語ってもらいます。小・中学校では、年齢層が近い大学生が語ると大きな関心を示すとの事。伝える場を設けられ学びの振り返ができることは、大学生にとっても良い機会ですね。

取材をおえて

防災団体と勝手な思い込みのまま聞き進めていく内に、活動の原点は経済価値、効率重視では計ることができない「人にとって幸せなまちづくり」を目指して連携協働の力で推進している活動集団ということがわかりました。
特に「困ったよ」と手を挙げると枝葉のごとく広範囲に繋がり、物も人材も参集するシステムは素晴らしく、連携のパワーを改めて感じます。今後は、更なる安全健全なまちづくりを目指し、障がい者の活動の場を広げること、命や環境の大切さについて学ぶ機会を増やすことを考えていているそうです。

◇代表：曽根順子さん（問合せ・0537-28-0396）
【情報提供・安藤ミエ】

レポート：海野ふさ子　編集委員

地域情報をお寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856
静岡市葵区駿府町1−70 総合社会福祉会館3階
【TEL】054-251-3585
【FAX】054-250-8681
【URL】http://www.sizcom.jp
【E-mail】sizucom0829@po.across.or.jp

地域活動に関心のある方へ！ お知らせします

※お問い合わせ、お申し込みは当協議会へ

コミュニティ・フォーラム2023

すべてのプログラムを You Tubeライブ配信します。

未来に向けての持続可能なコミュニティとは

2023.2/26（日）
12:30〜15:40

入場無料

会場 生涯学習センター
（藤枝市茶町1-5-5）

プログラム

12:00〜 受付
12:30〜 開会　主催者・来賓挨拶
12:45〜 表彰式　令和4年度コミュニティ活動賞
13:00〜 基調講演
「森は海の恋人
〜人の心に木を植える〜」
講師　畠山重篤 氏
14:00〜 休憩
14:10〜 パネルディスカッション
「未来に向けての持続可能な
コミュニティとは」
15:40 閉会

畠山 重篤 氏

NPO法人森は海の恋人 理事長
京都大学フィールド科学教育研究センター
社会連携教授

1943年中国上海生まれ。県立気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。海の環境を守るには海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることの大切さに気付き、漁師仲間と共に「牡蠣の森を慕う会」を結成（2009年、NPO法人森は海の恋人を設立）。1989年より気仙沼湾に注ぐ大川上流部で、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人運動」を行っている。同時に、子どもたちを牡蠣養殖場へ招き、海の体験学習を続けている。東日本大震災で牡蠣養殖施設等の全て失うが、発災直後より震災後の自然環境を活かした地域づくりを展開している。

パネルディスカッション「未来に向けての持続可能なコミュニティとは」
●パネリスト
栗崎弘義氏　（高町第3日曜市場　浜松市中区）
森脇陽亮氏　（市之瀬盛り上げ隊　藤枝市）
役重眞喜子氏（岩手県立大学総合政策学部　准教授）
●ファシリテーター
渡村マイ氏　（一般社団法人SACLABO代表理事）

問合せ：当協議会まで　電話　054-251-3585／FAX　054-250-8681

令和4年度コミュニティカレッジ終了!

通算43回目となるコミュニティカレッジが12月10日に閉講しました。
今年も会場とオンラインのハイブリット形式で開催。最終日は、全員会場参加し、グループワークでお互いの課題について話し合い、課題解決するための企画を練り上げ、プレゼンを行い終了いたしました。
今年度は計18人が修了し、昭和55年からの修了者は2,371人です。

各班のプレゼンの様子はYouTubeにアップしたのでご覧ください。

常務のつ・ぶ・や・き

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
昨年は私にとって応援の力の凄さ、素晴らしさを強く感じた年だった。スポーツの「奇跡」「歓喜」と称されるシーンも印象に残っているが、台風15号被害の復旧に汗を流す応援の人たちの姿を身近に見聞きしたからかも知れない。
勝負の場面ではどんなに応援しても残念ながら力及ばずということはよくあるが、コミュニティの場面では応援の成果は必ず形に現れるもの。日頃から皆さんがコミュニティ活動に頑張っている姿を発信して、関心を持ってくれる人を増やしておくと、いざという時に応援団として力を貸してくれるのだろう。　“デジタル活用・情報発信講習会”　今年もやります。